Pick up!

PLAY HOUSE

ミュージカル「天翔ける風に」

演出・振付：謝珠栄
原作：ドストエフスキー　脚色：野田秀樹『贋作 罪と罰』より

MUSICAL “AmakakeruKazeni”

撮影：熊谷仁男

荒(すさ)む日本の「今」に演劇で風穴を開ける

強固で普遍的なドストエフスキーの思索を、音楽と演劇の力で魅力的に届ける。
10年ぶりに傑作のリ・クリエーションに臨む謝珠栄の熱き思いを聞く。

野田秀樹がドストエフスキーの「罪と罰」を日本の幕末に移す翻案を施し、NODA・MAP第2回公演として1995年に初演した『贋作 罪と罰』。この舞台を観ながらミュージカル化の構想が閃(ひらめ)いたという振付家・演出家の謝珠栄が、野田の脚色のもと、自身のTSミュージカルファンデーションで『天翔ける風に』を初演したのが2001年のことだ。以来、座組を変えながら03年、09年（野田秀樹 東京芸術劇場芸術監督就任記念プログラム）、13年と上演を重ねた同作が10年ぶりに帰ってくる。

「作品が描く、大きく変わる時代のエネルギーを舞台上に現出したいという初演時の取り組みから、“自分も年を重ねて若い世代に思うことも色々ある今、コンパクトな座組でどう立ち上げるかという挑戦も含め、もう一度この作品に向き合いたい”と野田さんに話すところから、今回の再創造は始まりました」と語る謝は、「キャストも初参加の方が多く、また太鼓と津軽三味線の奏者に加わってもらうことで、これまで以上に“和”のテイストが色濃くなるのではないかと考えています。情熱的で魂を揺さぶる津軽三味線の演奏や音色は私も大好き！ 上演ごとに音楽をブラッシュアップし続けてくれる玉麻尚一さんも、新しく素敵なアレンジを創り始めてくれています」と続ける。

新たな時代を切り拓く志を持ちながら罪を犯す主人公の三条英(さんじょうはなさ)は、宝塚歌劇団退団後初のミュージカル出演となる珠城りょう。苦悩する英を見守りつつ時代の奔流に相対する才谷梅太郎には屋良朝幸をはじめ、今拓哉、東山義久、原嘉孝、加藤梨里香、駒田一、剣幸ら実力派が揃うキャスト陣も実に魅力的だ。

キャラクターについては、「社会や世間に対して自ら問いかけて行動する三条英は、“私の英”と呼んでしまうくらい大好きで特別な存在。その生き様に共感が大きいからこそ、罪を犯してからの英の苦悩や葛藤に観る方も引きつけられ、考えることが多いと思うんです。また、そんな若さゆえに過ちを犯した人間が道を正し、改めるために寄り添える人が少ないのが現代。その意味では才谷や、英の事件を担当する捜査官・都司之介の重要性がさらに増してくるとも考えています」とのこと。

「好奇心や攻撃のためだけに他者に関心を持ち、相手の気持ちや痛みを想像することができない人が増えている現状は憂うべきもの。能力が高い若者も多いはずなのに、社会全体が荒み低迷していく日本に歯止めをかけるには、想像力を存分に発揮して劇場中が交感し合う舞台芸術が有効に思えます。『天翔ける風に』にはそこに加え、人がいかに生きるべきかという根源的な問いが織り込まれている。回を重ねてご覧くださった方と初めてのお客様、両方にしっかりと届くよう四度目のクリエーションに臨みたいと思っています」という謝の言葉からもうかがわれる「今」をより鮮明に映す上演が、一人でも多くの観客に届くことを願っている。

取材・文：尾上そら（ライター）

9月29日㊎～10月9日㊊㊗
プレイハウス 詳細はP08へ

演出・振付：謝珠栄
原作：ドストエフスキー
脚色：野田秀樹『贋作 罪と罰』より

出演：珠城りょう　屋良朝幸
今拓哉　東山義久　原嘉孝　加藤梨里香
駒田一　剣幸

兵庫、豊橋公演あり

https://www.amakake2023.jp

Pick up!

VARIOUS PLACES

東京芸術祭 2023

Tokyo Festival 2023

国際的な舞台芸術の祭典「東京芸術祭 2023」開催中！

演劇、ダンス、アートプロジェクト――
この秋、バラエティー豊かなプログラムが池袋からあふれ出す。

毎年秋に豊島区池袋エリアを中心に開催される国際的な舞台芸術の祭典「東京芸術祭」が、9月1日からはじまった。10月29日まで続くこの芸術祭は、演劇やダンスの舞台作品をはじめ19の多彩なプログラムを実施する。

注目は何と言っても22年ぶりの来日公演となるフランスの革命的劇団・太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）の最新作『金夢島 L’ÎLE D’OR Kanemu-Jima』。演出家アリアーヌ・ムヌーシュキンが愛してやまない日本文化へのオマージュを込めた今作は、とある島を舞台に、謀略と権力闘争、国際演劇祭を巡るせめぎ合いや人間模様が、多様な舞台表現を駆使して描かれる。コロナ禍で延期を余儀なくされた全世界注目の作品が遂に日本で幕を開ける――きっと伝説的な瞬間を目撃できる貴重な機会になるだろう。

またSPAC-静岡県舞台芸術センターによる野外劇『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』も見逃せない。インドの神と人が紡ぎ出す大叙事詩『マハーバーラタ』の中でも最も美しいロマンスと言われる「ナラ王物語」をもとに制作された祝祭音楽劇で、2014年にフランス「アヴィニョン演劇祭」の公式プログラムに選ばれるなど世界的な評価も高く、これまで自然あふれる野外劇場、公園などさまざまな場所に出現。今回は芸術祭限定のスペシャルな会場で上演される予定だ。美しくダイナミック、心温まるロマンス……東京の空の下で幻想的な劇的空間を味わってほしい。

他にも劇場公演には、50名以上の登場人物のプロフィールと、その人たちにまつわる短いエピソードをもとに構成された三浦直之主宰・ロロの新作『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト（カタログ版）』や、時代の空気をすくい取り、身体をメディアとして社会へと問いかけるダンス公演『東京芸術祭×愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama　パフォーミングアーツ・セレクション 2023 in Tokyo』など充実のラインナップが揃う。

さらに、作曲家のとくさしけんごによる劇場やまちなかの吹き抜け空間に金管楽器群の生音が静かに共鳴するアートプログラム『とおくのアンサンブル』や、子育て中の親のアート鑑賞と子どものアート体験を両立させる託児プログラム『アトカル・マジカル学園　アートサポート児童館』、舞台芸術の未来を担うアジアの若者たちの人材育成と教育普及を目的とした「東京芸術祭ファーム」のプログラムなど、舞台芸術にとどまらないバラエティー豊かなプログラムも劇場内外で繰り広げられる。

総合ディレクターの宮城聰が打ち出した今年の芸術祭テーマは「世界を反転させて陽気になる方法」。さまざまな好奇心を刺激するプログラムとの出会いが、きっとあなたの固定概念を壊し、新たな楽しさや興味、人生の喜びを見つけるきっかけになるはずだ。

文：船寄洋之（ライター／編集者）

太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）
『金夢島 L’ÎLE D’OR Kanemu-Jima』
© Michèle Laurent

SPAC-静岡県舞台芸術センター
『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』
©K. Miura

9月1日㊎～10月29日㊐
東京芸術劇場、ロサ会館、
メトロポリタンプラザビル自由通路、
東京都豊島区池袋周辺エリアほか 詳細はP08、P13へ

https://tokyo-festival.jp/2023

東京芸術祭 Tokyo Festival